

VR 認知症体験会を開催



認知症の症状をリアルに体験

9月13日マザーホーム戸室にて、株式会社シルバーウッドによる認知症VR体験を開催しました。地域にお住まいの方14名が参加し、3つの認知症による症状を体験してもらいました。①空間における物の位置関係が分からなくなる(視空間失認)②自分がどこにいるのかわからなくなる(場所の見当識障がい)③実際にはないものが見える(レビー小体型認知症による幻視の症状)。実際に体験した方にお話をうかがうと、「切実な気持ちが味わえてよかった。いろんな年代の人に体験してもらいたい。」「同じものを見ていても、症状によって認識の違いがあるとわかった。」といった感想が聞けました。講師からは、「認知症による症状を理解することも大切ですが、それを「わがこと」として捉えて、認知症を抱える本人がどうしてほしいかを考えることが重要」とお話がありました。

よろず音楽隊ミニデイサービスを訪問

9月20日恩名・温水老人憩いの家にて、よろず音楽隊が温水地区ミニデイサービスを訪問しました。お茶の時間には、地域包括支援センターの利用の仕方について、皆さんの質問に答えました。90歳を超える参加者の方の元気の秘訣をみんなで聞き、楽しいひと時になりました。地域包括支援センターは地域の集まりに伺うこともできますので、お気軽にお問い合わせください。



懐かしの名曲を皆さんと歌いました

地域包括支援センターは、地域の皆様の相談窓口です

介護・健康・福祉等の相談をお受けしています。

まずは、お電話ください。

電話 **046-250-1108**

営業時間 月～金曜 8:30～17:00 / 土曜 8:30～12:00

担当地区 戸室・恩名・温水・温水西・長谷・愛名・毛利台



9月6日厚木市地域包括ケア推進課の協力のもと、荻野地域包括支援センター、南毛利地域包括支援センター共催で多職種研修会を行いました。当日は医師、看護師、介護福祉士、ケアマネジャー、福祉用具専門相談員、薬剤師など、多様なメンバー40名が参加し、講師の徳武クリニック院長 徳武巖先生からのお話のあと、多職種連携についてグループワークを行いました。

参加者からは「看取りに関わる職種の人たちが対面で共感したり、課題を共有するのは有意義だった」「顔の見える関係が築けて良かった」という声をいただきました。地域包括支援センターでは、暮らしやすい地域づくりのため、多職種研修会、ケアマネジャー連絡会を定期的に行っています。



それぞれの思いや悩みを話し合いました

『認知症ケアパス』をご存じですか？

認知症ケアパス（以下、ケアパス）は、認知症の人とその家族が住み慣れた地域で生活できるようにまとめられた虎の巻です。認知症に対する不安や介護負担の軽減を図れるよう、主に右記のような内容が書かれています。

- 認知症の症状やその対処方法
- 認知症の状態に応じたサービス内容
- どのような支援を受けられるのか
- 相談窓口



厚木市認知症ケアパスが新しくなりました！

- 今年秋、厚木市認知症ケアパスがリニューアル
- 「地域で支える認知症～虎の巻～」として、より親しみやすいデザインに

認知症は、早期発見と早期対応が大切な疾患。知識をつけることで、家族やパートナーの変化に気づくことができるかもしれません。また認知症を知ることも、予防の1つになり得ます。これまでのケアパスを見たことがある人も、この記事で初めてケアパスに出会った人も、新しくなったケアパスに目を通してみてはいかがでしょうか。

厚木市役所等で配布中。地域包括支援センターでも配布しています。



恐竜博物館に行ってきました。大きく個性的な恐竜達は魅力にあふれていて、力強いパワーを感じることができました。皆さんの好きな恐竜はありますか？

